1．『みしまの女と男の歩みⅤ』の作成

みしま女性史サークル
代表　大村 洋子

1．事業目的

男女共同参画にかかる三島の地域史への理解を深める。

＜**『みしまの女と男の歩みⅤ』発行に際して**＞

私たち､みしま女性史サークルが 1999（平成２）年度より聞き書き集の作成を始めて、二十年になります。今日まで、小冊子９冊と『三島の女性史』を作成し、147 名の方の貴重な体験を記録することが出来ました。

今回は前４冊に引き続き、『みしまの女と男の歩み』として、12 名の方からお話をお聞きしました。

2018（平成 30）年は地球温暖化によるものなのか、日本列島は大地震、台風などで大きな災害に見舞われました。人々の生活は、昭和時代、平成時代とどのように変わってきたのでしょうか。国民ひとりひとりは豊かで平和な世の中であることを願って生きています。

私たち女性史サークルは、そういう人々の生き方を記録することが使命だと思っています。

2019（平成 31）年は、今上天皇から皇太子さまに皇位を継承され、新しい年号に替わる年です。平成時代、日本は戦争しない三十年間でした。次の時代も日本のみならず世界中が戦争の無い日々を過ごしてもらいたいと願っています。

代表　大村 洋子

2．事業内容

聞き書き『みしまの女と男の歩みⅤ』は、女性６名、男性６名からお話をお聞きし、文章化しました。話し手が男女共同参画の視点をもって、社会とかかわり生きてきたかを講師の指導により深めて冊子にしました。また、できた冊子は三島市民のみならず、静岡県民及び地域女性史研究会（全国組織）の方々にも購読して貰い、三島の地域史への理解を深めた。

3．実施日時

平成 30 年 7 月 23 日～平成 31 年 1 月 31 日

4．実施場所

三島市内

5．対象者

取材対象者：三島市在住または三島市内へ勤務

6．参加人数

取材対象者 12 名　聞き手９名

7．事業の成果

＜『みしまの女と男の歩みⅤ』目次＞

1．酒井悌治　「尾張屋の跡取り息子」
　（聞き手）大村皖伸、山崎芳子
2．澤本せつ　「脳出血を乗り越えて」
　（聞き手）大村洋子、山崎芳子、大村皖伸
3．杉内政巳　「大熊町から三島市へ」
　（聞き手）柳詰けい子、長川祐子
4．竹井英夫　「仕事に生き、趣味に生きて」
　（聞き手）大村洋子、山崎芳子
5．福井善徳　「夢多き好々爺」
　（聞き手）山崎芳子、佐藤照子
6．前田多可子　「昭明館のおかみとして」
　（聞き手）池田まゆみ　前田恵美子
7．渡邉善司　「西町最後の農家を守って」
　（聞き手）大村皖伸、小薮余志美
8．月野義識　「控えめでもしっかりと、
　そしてのびのびと」
　（聞き手）大村洋子
9．月野宰子　「のびる幼稚園の歩み」
　（聞き手）長川祐子
10．山本泰子　「共働きの子育てと社会参加」
　（聞き手）長川祐子、大村洋子
11．渡辺羽子　「大三島から東京・修善寺
　そして三島へ」
　（聞き手）大村洋子
12．草間路代　「箏、声、三弦の限りない
　可能性を求めて」
　（聞き手）柳詰けい子　大村洋子

＜『みしまの女と男の歩みⅤ』に寄せて＞

2018（平成30）年は、明治維新（1868年）から起算して150年目にあたり、政府や地方自治体を中心に、明治を近代化の偉大な成功物語とする祝賀事業が繰り広げられました。

しかし、明治は女性の視点から見ると、「夜が明けてからの昏さ」の時代であったことも事実です。政治的権利もなく、「家」制度の下で、生涯にわたり父・夫・息子に従属して生きた女性たちの有りようを歴史に書き留める―このような強い気持ちで地域女性史は取り組まれてきました。

『みしまの女たちの歩み』も2000年に「明治生まれ編」が発刊されてから、対象を男性にも広げ、今回は「昭和生まれ」の方々12人の人生を聞き書きされました。内訳は、女性5人、男性5人、一組のご夫婦で、ジェンダー・バランスへの配慮がなされています。

一方で、2018年の経済フォーラムによる「男女格差」の度合いを示すジェンダー・ギャップ指数において、日本は一四九ヵ国中110位、安倍晋三内閣では女性閣僚は一人という厳しい現状があることも事実です。

今回も多様な方々の貴重な人生が聞き取られました。とりわけ、昭和戦前期に生まれ、戦後の高度経済成長を支えてきた男性たちが、リタイア後三島という地域に溶け込んで、趣味を生かしつつボランティア活動で地域貢献をされている姿がいくつも聞き取られています。それは、団塊の世代が大量にリタイアすることによって

生じる問題が「2007年問題」として懸念されたことを見事に裏切る有りようです。また、共働きの女性の記録、病気を克服しながら生きがいである教員を続けてきた方の人生など、読む方をも励ますような人生が書き留められています。
今年は天皇退位による初めての改元の年です。今回、「昭和」、「平成」と懸命に生き抜いて来られた方々の人生が記録されたことは意義深いと思います。　平井和子（一橋大学大学院社会学研究科特別研究委員）

＜聞き書きを終えて　あとがき＞

・今回初めて録音なしで書かせて頂きました。常にお話を聞いていたので、お話されることが、やっと身体に入ってきました。
先回までは、録音お越しをして、何回も聞き、やっと書いたと思えば、時代が一代違っていてお叱りを受けたりしました。人生の大先輩ですから、私で善いのかといつも心配しながらの聞き取りです。私はお話を聞いて生活の中で役に立ち大変満足しています。聞かれた方は、もっといい人に聞いてもらいと思っていると思います。私ですみませんと思いながら書かせて頂いています。
私は、年を重ねると、何でもないことが即座にできなくなり、長く生きる事は大変だとつくづく思っているこの頃です。　池田 まゆみ

・まさに人に歴史ありで、人と共に歴史は作られるんですね。それを学ぶことが出来て、有難いことです。
若い頃、地域の作業をすると終ってから大先輩から君たちは可哀そうだよな、わしらは、じゃあ尾張屋へ行くべえって行ったもんだと言われました。おそらく､尾張屋って名はその象徴だったんですね。
夏まつりの山車の引廻しが終わると、最後は新地に集結したもんだという話も聞かされました。　大村 皖伸

・いつものことながら、お話をお聞きするのは楽しい時間ですが、文にまとめるとなると充分にお聞きしていないことに気づき、二度三度とおうかがいすることになりました。
今回、４名の方の聞き書きをしましたが、今まで見過ごしていた資料から話者ご本人も知らなかった事実が判明し、喜んでもらえたこともありました。聞書きは温故知新の作業です。
大村 洋子

・女性は結婚したら、家に入る、ましてや子供が生まれたら仕事は止めて当然という社会通念が通っていた頃。今でいう共働きの道を開拓した山本さん。周囲の、特に男性からの心無い言葉に悩みながらも、強い意志と行動力で切り拓いてくださった山本さん。私にはできなかったことでした。今も社会のために、そして自分のためにいきいきと働いていらっしゃる姿は。私にとっても大きな手本になりました。長川 祐子

・杉内さんと初めてお目にかかったのは、震災後半年くらいの頃です。知人から「大熊町から避難して来た民謡の先生がいるから、話を聞いてほしい」と声をかけられたことがきっかけでした。お会いしてお話を聞くと、地震のことを嘆き悲しんでいるのではなく、三島で民謡を唄い、生活から生まれた民謡の素晴らしさ伝えたいと考えていらっしゃいました。どんな状況にあっても、家族や周りの人を大切にし、自分のできることをしていこうとする杉内さんの生き様に感銘を受けました。　柳詰 けい子

・12月に入り、電話のベルが鳴るたびに大村代表からの原稿の催促ではないかと息を詰める始末でした。いつものことながら、お話を伺う時、前もって質問のことをメモしてからと解っているんですが、まとめる時になり、もっとあれも

聞かなくてはペンが止まってしまいます。（平井先生の赤ペンの直しの夢を見ました）。
来年は亥年です。年女です。年々物忘れが多く悩みです。でも、女性史サークルのおかげで、何とか辞書を片手に字を書くことをする作業を苦しみながら、完成することが出来、ホットしている今日此の頃です。　　山崎 芳子

8．今後の展望

これまで、女性史講座をさせて貰った、北上くらしのサロン、錦田女性学級、中郷女性学級、錦田歴史研究会などへ報告会をさせて貰う。三島市へは図書館、小中学校へ配布して貰うよう三島市長に報告し、お願いする。各新聞社に報道依頼をする。そして、この成果を周知し、さらに聞き書きを進めていきたい。

9．協働団体

静岡県女性史研究会
きらり交流会議女性史づくり
SWOS の会
地域女性史研究会（全国組織）
グローバル文化交流協会 自然食グループ香芽会

「聞き書き みしまの女と男の歩みⅤ」贈呈式（平成 31 年 2 月 15 日三島市役所にて）